

事業計画書

令和4年(2022年)1月1日から12月31日まで

公益財団法人スポーツヒューマンキャピタル

〔 目 次 〕

1 当法人に関する事項

- (1) 事業の計画
- (2) 損益の計画と財産の見通し
- (3) 主要な事業内容
- (4) 会員に関する事項
- (5) 職員に関する事項
- (6) 役員会等に関する事項
- (7) 対処すべき課題

2 役員等に関する事項

- (1) 理事
- (2) 監事
- (3) 評議員

1 当法人に関する事項

(1) 事業の計画

(単位:千円)

令和 4(2022)年度当期正味財産増減額	予算額
公益目的事業会計	△32,200
合計	△32,200

*千円未満は四捨五入

〔公益目的事業〕

公益財団法人スポーツヒューマンキャピタル(略称 SHC、以下 SHC)は、スポーツ基本法の目的でもある「国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現及び国際社会の調和ある発展」に寄与するため、サッカーをはじめ他スポーツ団体とも連携をとりつつ、知的資産および人的資源活用の整備、活用を通じて、スポーツ団体が行う諸活動の継続発展、さらに日本におけるスポーツの新たな価値提供の実現を目指した以下の事業を主体的に実施しております。

① スポーツ経営人材養成／研修

-1. 養成／研修「スポーツヒューマンキャピタル スポーツビジネスマスターコース(以下、SHC コース)」

プロスポーツ界の未来を担うスポーツ経営人材を発掘・育成する一般公開型スポーツ人材開発講座を企画・実施しています。国内外の先進的な事例の取り入れや、優れた専門家人材(プロスポーツ団体・クラブ、企業経営者、大学教員・研究者など)の招聘を積極的に行い講座参加者の知見を高めるとともに、現場演習を重視した経営実践能力の習得を促進するものです。

令和 4(2022)年度 SHC コースは、2期制とし、合計約60名の参加者で実施いたします。本プログラムを当法人の中核事業とし、コンテンツの充実を図りながら、将来のスポーツ界を支える人材の輩出を目指してまいります。

-2. 関連派生講座(SHC Cafe など)

SHC コースにおける知見とコンテンツを活用した各種派生講座です。令和元(2019)年度に新たに立ちあげた、SHC コースのOBOG 向け(一部一般にも開放)ワークショップ(名称:「SHC Cafe」)を令和4(2022)年度においても推進してまいります。SHC コース参加者の継続的な学びの機会の提供、スポーツビジネスに興味のある人材(学生を含む)との接点の構築を目的として、SHC が構築する人材コミュニティの基盤とすることを目指します。

② スポーツ経営人材の活用(職業紹介)

SHC コース修了者をプールし、スポーツ団体において雇用・活用することを目的に、コース参加者、修了者を対象とした個別キャリア面談、求人・求職のマッチング、などのキャリアデザインを行います。日本のスポーツ界に幅広く経営人材を輩出することを目指し、特別協賛会員各社とも連携の上、このスポーツ経営人材の活用事業をさらに推進してまいります。具体的には、スポーツ組織へのより幅広く能動的な接触を可能とする体制の整備や、スポーツ組織における人材の活用に関するこれからのあり方(兼業、副業による就業や適切な支援、助成の仕組みなど)を検討し、実現に向けた取り組みに注力いたします。

・講座実施だけでなく、人材の採用・活用までを対象とする

- ・当法人が主体となり、スポーツ団体と連携の上、雇用・活用を促進する
 - ・スポーツ界外部の秀でた人材を鍛え獲得する仕組みをつくる
- 特に令和4年度より、スポーツ組織が副業人材を確保できるように、両者のマッチングを支援する副業人材支援事業を本格的に開始致します。

③ 調査・研究

プロスポーツ団体・クラブ、その他スポーツ団体などが個別に実施している調査・研究を統合し、知的資産の整理を図り、より効果的な調査・研究としての活用を図ります。令和2(2020)年度は、これまで関係のある省庁(スポーツ庁等)、スポーツ組織や競技団体、その他企業からの要望に応じて随時調査を企画、実施します。

- ・スポーツビジネスの当事者にとり実用的な調査・研究を実現する
- ・各スポーツ間で連携の取れた調査を可能にする

④ 派生講座、イベント、出版

平成29(2017)年より開催しているSHCコースの修了者と対象とした同窓会イベント(名称:SHC Home Coming Day)の開催を始め、記念イベントの開催を予定しています。

- ・スポーツビジネスの当事者としての立ち位置やネットワークを活用する
- ・「SHCコース」で蓄積した知見を核にした、実践的セミナーコンテンツを提供する

(2) 損益の計画と財産の見通し

(単位:千円)

	令3年度(2021)年度 (見込み) 自 令和3年1月1日 至 令和3年12月31日	令和4年度(2022)年度 (予算額) 自 令和4年1月1日 至 令和4年12月31日
当期経常増減額	16,925	△32,200
当期一般正味財産増減額	16,925	△32,200
当期指定正味財産増減額	0	0
正味財産期首残高	—	—
正味財産期末残高	—	—

*千円未満は四捨五入

(3) 主要な事業内容

事業	主要な事業の内容
公益目的事業	この法人は、日本のスポーツにおける知的資産及び人的資源活用の基盤を整備、確立し、スポーツが提供する新たな価値を創造し、これからの世の中造りに貢献する事業 (1) スポーツ経営人材養成、研修事業 (2) 職業安定法に基づく職業紹介事業等スポーツ経営人材の活用事業 (3) 調査・研究事業 (4) セミナー、講演、出版事業 (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(4) 会員に関する事項

種類	令和3(2021)年12月31日	令和4(2022)年度(計画)
スポーツ団体会員	1名	1名
特別協賛会員	2名	2名
協賛会員	1名	2名
賛助会員	0名	1名
個人会員	0名	0名
合計	4名	6名

(5) 職員に関する事項

令和4(2022)年1月1日(予定)

職員の数	1名	うち常勤	1名
------	----	------	----

(注) 理事兼務者を除き、他の機関・企業からの出向者、他の機関・企業への出向者、退職者を含む。

(6) 役員会等に関する事項

①理事会

定款に基づき必要がある場合に随時開催する。

② 評議員会

定款に基づき毎事業年度終了後3箇月以内に1回開催するほか、必要がある場合に随時開催する。

(7) 対処すべき課題

(財務)

2021年度は2020年度より引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け東京オリンピックを契機としたオンラインイベントの縮小により当初予定していた予算の執行ができませんでした。そうした経緯もあり、経常収益は77,878,381円、経常費用は60,953,416円、当期経常増減額は、16,924,965円となる見通しです。

2020年度において積み立てた特定費用準備資金に2021年度の当期経常増減額(見込み)を加えた金額については、2020年度に設定したSHC周年記念事業準備資金、及び、SHCスポーツビジネスマスターコース選考・視察当経費準備資金の見直しを行うとともに、2021年度に新規に副業人材支援に関する準備資金、および、SHCの未来のためのコンテンツ開発研究に関する準備資金の積み立てをします。

また、当該資金を計画通りの予算執行をすることにより、収支相償要件の継続的に充足します。

2 役員等に関する事項

(1) 理事

(2022年1月1日時点(予定))

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	他法人等の代表状況等
代表理事	本間 浩輔	自: 2021年3月26日 至: 2023年定時評議員 会終結まで	非常勤	なし
理事	木村 正明	自: 2021年3月26日 至: 2023年定時評議員 会終結まで	非常勤	(公社)日本プロサッカーリーグ 専務理事
理事	大浦 征也	自: 2021年3月26日 至: 2023年定時評議員 会終結まで	非常勤	なし
理事	岩崎 秀昭	自: 2021年3月26日 至: 2023年定時評議員 会終結まで	非常勤	なし

(2) 監事

(2022年1月1日時点(予定))

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	他法人等の代表状況等
監事	大塚 則子	自: 2021年3月26日 至: 2023年定時評議員 会終結まで	非常勤	(公社)日本プロサッカーリーグ 監事

(3) 評議員

(2022年1月1日時点(予定))

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	他法人等の代表状況等
評議員	村井 満	自: 2021年3月26日 至: 2025年定時評議員 会終結まで	非常勤	(公社)日本プロサッカーリーグ 理事長 (公財)日本サッカー協会副会長
評議員	原 博実	自: 2021年3月26日 至: 2025年定時評議員 会終結まで	非常勤	(公社)日本プロサッカーリーグ 副理事長
評議員	小西 孝生	自: 2021年3月26日 至: 2025年定時評議員 会終結まで	非常勤	(株)Jリーグ 取締役 執行役員